

県協会だより

第 49 号

令和 5 年 12 月 12 日

発 行

鳥 取 県

バドミントン協会

総務本部 総務部

事業本部

事業本部長 植田 睦美

第 66 回中国地区総合バドミントン選手権大会を米子産業体育館で開催

9月22日(金)から24日(日)の3日間、米子市に於いて「第66回中国地区総合バドミントン選手権大会」を開催しました。5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行されたことで観戦者等の制限もようやく緩和され、中国5県の精鋭の熱いプレーと観客席の声援合戦が繰り広げられる中、盛会のうちに大会を終えることができました。ひとえに大会運営に当たりご協力くださいました皆様、また、多くのご声援をくださいました皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

大会においては、繰り広げられる各県トップ選手のプレーに大きな歓声を送られ、会場全体が選手と一緒に一喜一憂しているようでした。また、各種目で鳥取県選手団の活躍が見られ、女子ダブルスでは桶田 彩乃・種岡 遥組が優勝、男子ダブルスでは新木 統・新木 颯組が準優勝、ミックスダブルスでは米田 翔平・生木 萌果組が3位入賞、他にも多くの入賞者を迎えることができました。全日本総合バドミントン選手権大会への参加資格を得ることのできる大会として、中国5県のトップレベルの選手の参集する大会での価値ある入賞に、大きな拍手を送りたいと思います。今後、一層の選手の皆さまのご活躍を祈願申し上げて大会後記とさせていただきます。



強化本部

強化本部長 山本 明良

鹿児島国体2023の大会結果と出場選手の感想

◆鳥取県選手団の大会結果

成人男子	
1回戦	奈良県 2 - 0 鳥取県
少年男子	5位入賞
1回戦	鳥取県 2 - 1 高知県
準々決勝	青森県 2 - 1 鳥取県
少年女子	
1回戦	鹿児島県 2 - 0 鳥取県

◆特別国民体育大会出場選手の感想

少年男子選手 新木 統

今年の鹿児島 指宿市で開催された「特別国民体育大会」において、私が出場した少年男子は、38年前鳥取県で開催した「わかとり国体」以来の入賞を果たし、鳥取県のバドミントン界の歴史に足跡を残せたこと、とてもうれしく思っています。

国民体育大会は、高校生活ラストの大会でそれと同時に小学生の頃からずっとペアを組んできた双子の颯と出場する最後の大会でもありました。そのため、この大会に対する思いは強く、「悔いの残らないよう楽しもう」と2人で話していました。

一方、インターハイ等の全国大会には、参加しているので、その大会の雰囲気は良くわかっていましたが、国民体育大会に参加するのは初めてで、選手待機所などの雰囲気は味わったことのない緊張感がありました。やはり、各県を代表し、県を背負って戦う舞台には独特のものを感じました。

そんな中、一回戦の高知県では、ダブルス・シングルス共に、雰囲気に飲まれないよう声を出し楽しみながらプレーでき勝つことができました。チームとして、2-1で勝利し、38年ぶりの入賞を果たした瞬間でした。

2試合目は、ベスト4をかけてナショナルの選手がいる青森県との戦いになりました。もちろん格上の相手。颯と組んだダブルスでは、最初から向かっていく気持ちで挑み、勢いで勝ち切ることができました。チームとしては、1-2で敗退はしましたが、ダブルスにおいては、颯と組む最後の大会を勝ちで終えることができました。



高校卒業後、大学に進学し、バドミントン競技を続ける予定にしていますので、来年度は、成年男子での参加を目標に今後も頑張っていこうと思っています。

世界シニア選手権を終えて

花本 大地

まず初めに今回の世界シニア選手権出場に対し、応援・激励や帰国後のお声がけなどをいただいた皆様、本当にありがとうございました。

今年、世界シニアが韓国で開催されるという話は、昨年あたりに全国のバド仲間から聞いていました。

前年度の全日本シニアでベスト8のうち4人まで出場ができるということで、近隣の韓国であることや2年に1回の開催ということもあり、出場を決意しました。

日程的に10日間の滞在で仕事の調整も大変でしたが、会社の方も応援してくださり、出場することができました。本当に感謝しています。

試合会場は全州という場所で、関空から釜山まで行き、そこからは高速バスで3時間程度かけて移動という行程でした。

全州は、結構都会で、ホテルの側には、飲食店をはじめ様々なショップや映画館などが立ち並び、若者もあふれかえっているような場所でした。

現地では、日本選手団も多く、みんなでワイワイしながら食事したり、会場では応援しあったりと、幅広い年齢層の方々との交流も深めることができました。

自分の試合についてですが、1回戦(9/11)はイングランドの選手と対戦しました。久々の海外選手との試合ということもあり、ある意味初戦が一番緊張しました。2-0で勝つことができ、試合後は写真と一緒に撮ったり、英語で交流を図りました(ホントに英語をもっとしっかり勉強しておけば良かったと実感しました。)

2回戦(9/12)は香港の選手でした。ラリー型の選手で粘ってきましたが、自分も調子が良く、2-0で勝つことができました。試合後にシャトルcockで作った記念品をいただき、次も頑張ると声をかけてくれて、とても嬉しい気持ちになりました。

3回戦(9/13)はスイスの選手と対戦しました。振り返ってみるとこの試合で勝ち切れたことが準優勝に繋がったと思います。本当にタフな試合でした。ちなみに全試合通じて、会場の風はすごく、それをどう味方につけるかも非常に苦労した点でした。スイスの選手は、国際大会を多数経験している選手でもあったので、実力があることは分かっていたのですが、1ゲーム目は動きが硬くなってしまい、なかなか修正がきかず取られてしまいました。2ゲーム目からは、冷静にラリーしながら我慢し、3ゲーム目も積極的に攻撃し勝つことができました。

そしていよいよ準々決勝(9/14)は、一番楽しみにしていたタイのブーンサック・ポンサナ選手との対戦でした。ポンサナ選手は、オリンピックやジャパンオープンなど、世界で活躍してきた選手であり、私自身もいつも試合を見て楽しんでいた選手でした。当時より、テクニシャンで様々な配球やフェイントが得意な選手でしたが、その技術力は今も健在で全く何が飛んでくるか分からず、試合をしていて何回も驚かされる場面がありました。私自身も、こんな選手と試合できることは初めてで、もう二度とないかもしれないと思い、今まで感じたことのないような集中力と動きができたのではないかと思います。結果としては2-0で勝つことができ、これまでの勝利で一番うれしかった瞬間かもしれません。

1日休養日をおいて、準決勝(9/16)は日本人の二宮さんとの対決となりました。全日本シニア選手権の準決勝でも勝っている相手でしたが、もともと力のある選手で海外での試合ということもあり、違う緊張感の中での試合でした。結果としては、風も味方につけ、2-0で勝つことができ、ホ

ッとしたというのが正直な感想です。

そして決勝戦（9/17）は、台北の選手との対戦でした。順調に決勝まで勝ち進んでおり、非常に安定感のある力のある選手でした。結果は0－2で敗退してしまい、準優勝という形で大会を終えることとなりました。非常に悔しい負けでしたが、国際大会の経験の差や体のタフさで相手が上回っていたと思います。年齢が一緒ということもあり、いつかリベンジしたいと思います。



試合後は表彰式が開催され、様々な国の選手と写真を撮ったり、賑やかなムードでとても楽しい時間を過ごしました。その日は最後の韓国での時間を満喫し、翌日（9/18）に日本へ帰国しました。閑空についた時には、無事に帰れてホッとしたのを覚えています。

最後に、今回の大会（韓国）で感じたことをザッと挙げます。

- ・まじで食事が美味しい（サムギョプサル・プルコギ・冷麺・ビビンバ・韓国焼肉 などなど）
- ・タクシー代が安く、気軽に利用できる（運転は荒い（笑））
- ・日本選手団が団結して心強い
- ・英語力大事 など



世界シニア選手権では各国の選手との交流はもちろん、試合後にプレゼントを交換しあう姿もあつたりと、勝負の世界だけでなく、異文化交流といった観点でもとても有意義な大会でした。

今後も2年に1回、様々な国で開催されていくと思いますので、鳥取からも一人でも多く参加されていけたらいいなと思っています。ちなみに次回はニュージーランドだそうです。

私もまた機会があったら参加したいと思っています。次、出場した時は優勝してきます！